

星めぐりのメグル  
～ニコニコ大冒険～



# 星めぐりのメグル

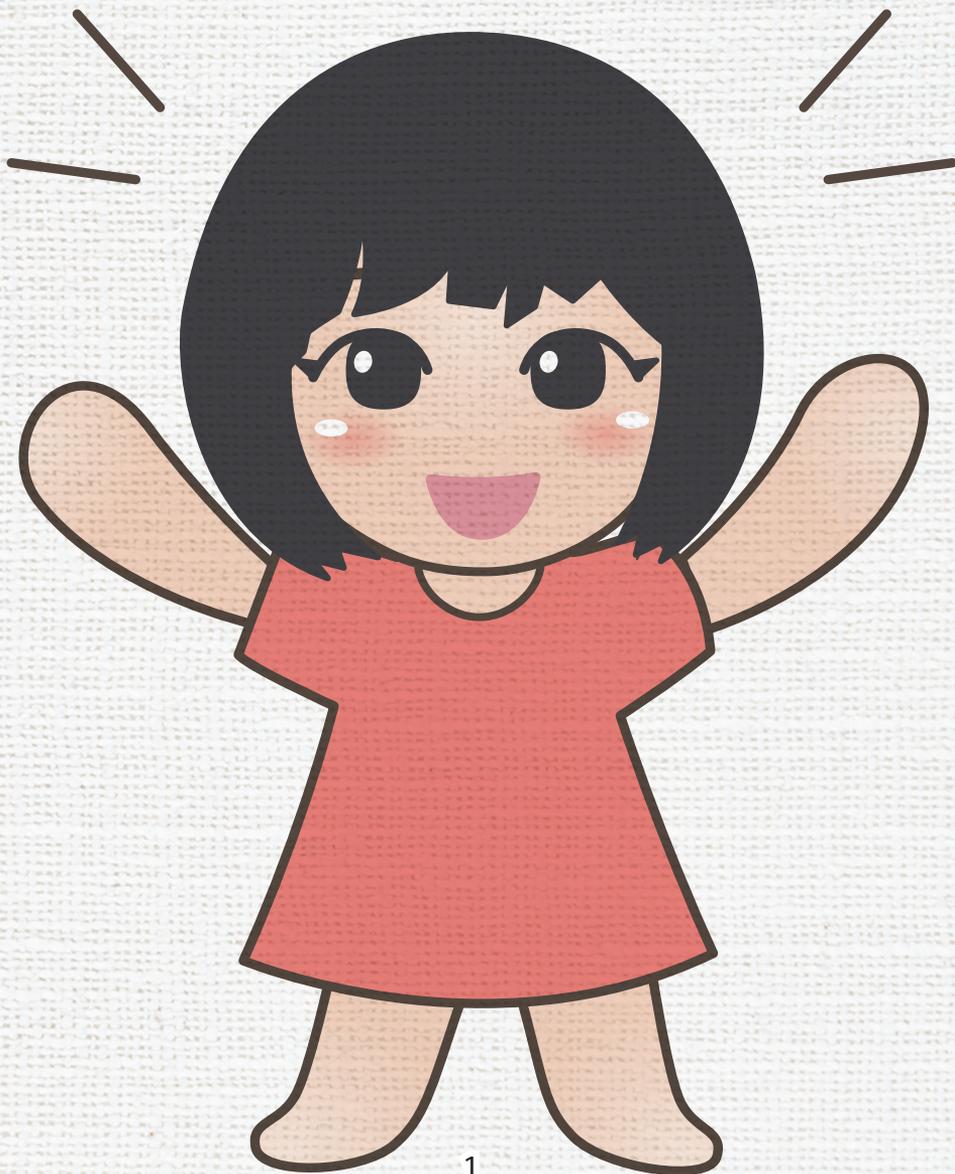
## ～ニコニコ大冒険～

ぶん：にいぬま わたる

え：まつだ たかゆき

日曜日の朝、メグルはいつもみたいに元気に  
起きました。

「かあちゃんおはよう！とうちゃんおはよう」

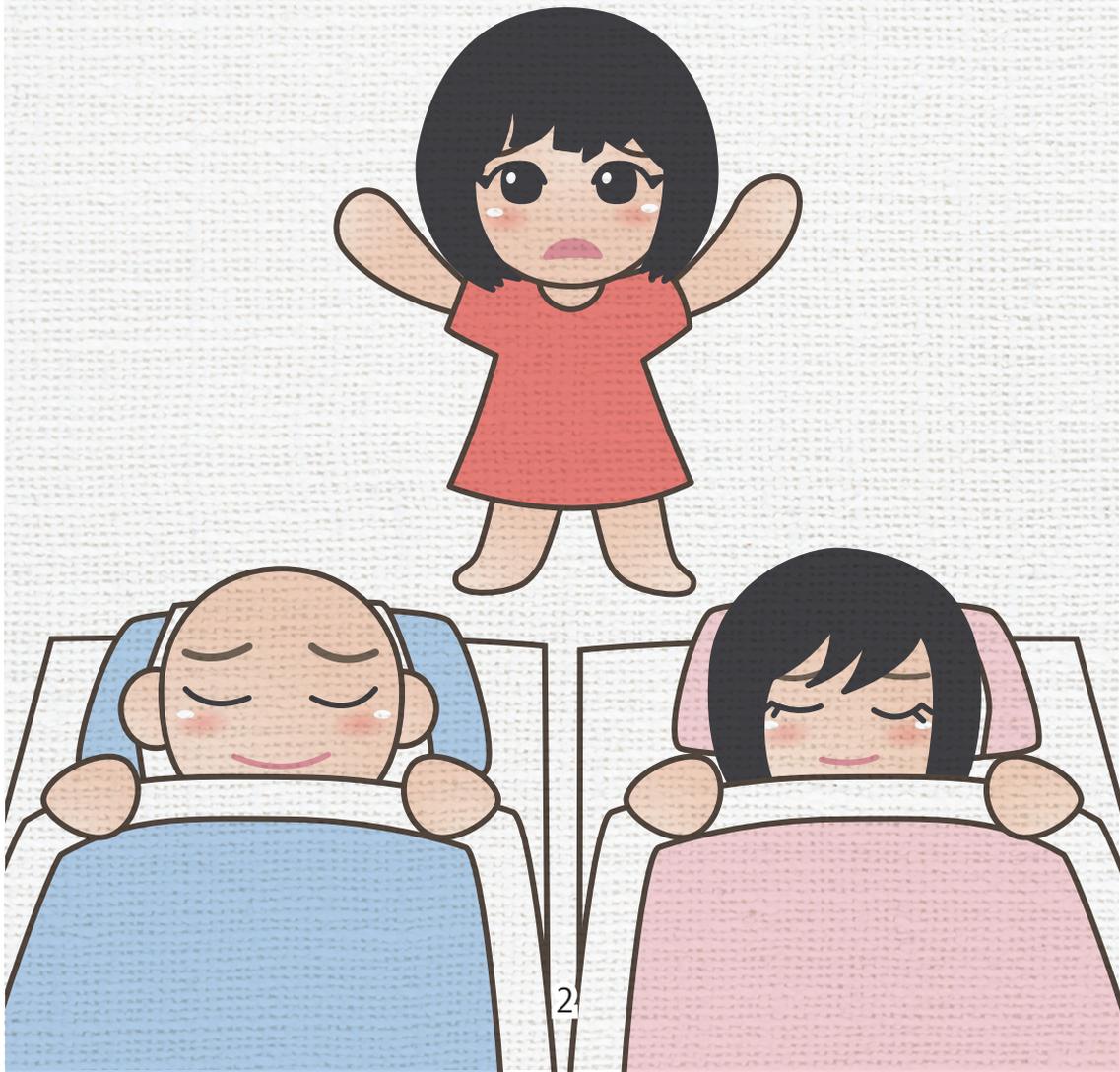


でも隣で寝ているかあちゃんととうちゃんはちっとも起きてきません。

「かあちゃんおきてー！とうちゃんおきてー！」

「ごめんムリー」「あと5分ー」

メグルは一生懸命声をかけたけど、二人ともお布団の中でモゴモゴしゃべるだけで全然ダメ。



メグルが悲しい気持ちになっていると、窓の外に三毛猫のミュウちゃんがきてこういいました。

「二人とも夢のパワーがなくなったんだにゃあ。  
だから起きてこないのにゃあ」

「どうすればいいの？」



「夢のパワーの詰まった魔法の「夢豆乳」を  
飲ませるしかないにゃあ」

ミュウちゃんはそういうとはぶるっと震えました。  
そうするとあら不思議。たちまちメグルの三倍くらい  
大きな姿になりました。



「メグル、背中にのるにゃ。

一緒に「夢豆乳」を探しに行くにゃ！」

「うん！」

メグルはミュウちゃんの背中に乗りました。

ミュウちゃんはメグルを乗せると、

空を駆けてぐんぐん雲の上に上っていきました。

2人の冒険の始まりです。



メグルを乗せたミュウちゃんは雲の上を通り過ぎ、  
星の世界まできました。

「あ、あそこに赤いデコボコの星があるよ」

メグルが一番近い星を指差していました。

「あそこはヤダヤダの星だにゃ。よしおりて見るにゃ」



二人が降りた星は風がびゅうびゅう吹いていて、  
はだかんぼうの女の子がひとりぼっち  
お菓子を食べていました。

「夢豆乳はどこですか？メグたち、  
夢のパワーを探してるんです」

「ヤダヤダ。夢のパワーなんてヤダヤダ」

「ご飯を食べるのもヤダ。服を着るのもヤダ。  
なんでもかんでもヤダヤダヤダ」



「悪いけど夢豆乳はここにはないよ」

「そうか、しかたないね。また今度」

2人はヤダヤダの星の女の子にバイバイしました。

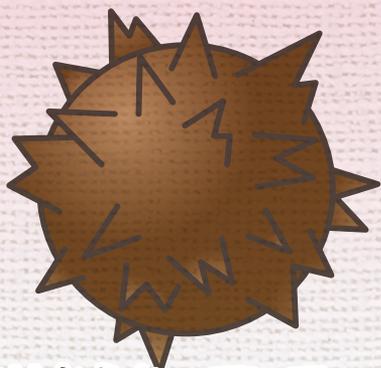


メグルを乗せたミュウちゃんはぐんぐん進んで  
次の星のとことまできました。

「あ、あそこに茶色のとげとげの星があるよ」

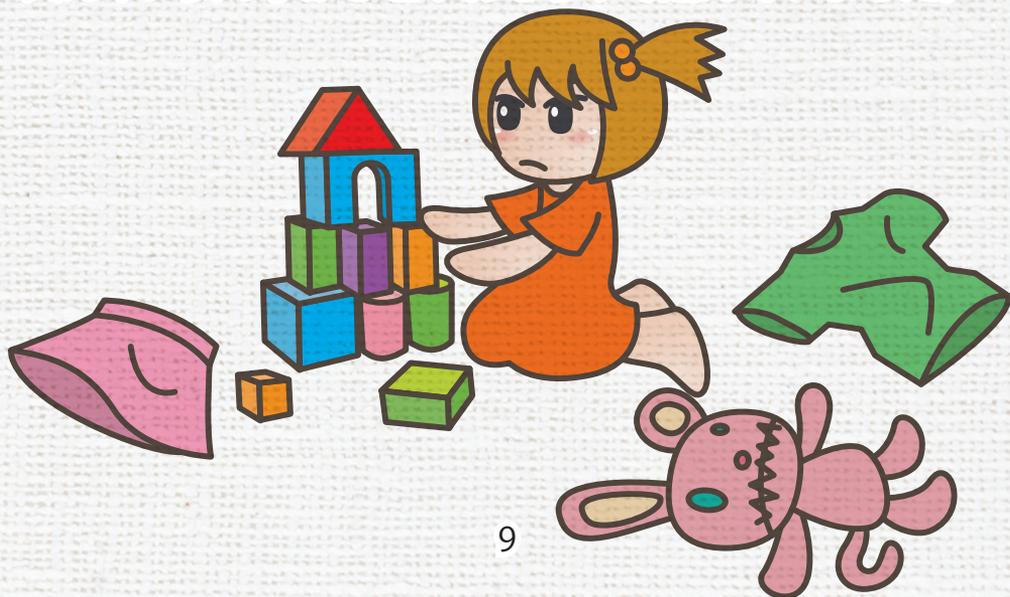
メグルは一番近い星を指差していました。

「あそこはポイポイの星だにゃ。よしおりて見るにゃ」



二人が降りた星にはちらがっていて、

真ん中に女の子がひとりおもちゃで遊んでいました。



「夢豆乳はどこですか？メグたち、  
夢のパワーを探してるんです」

「ポイポイ。夢のパワーなんてポイポイ」

「おもちゃもポイポイ。服を脱いだらポイポイ。

お片づけ大嫌いポイポイポイ」



「悪いけど夢豆乳はここにはないよ」

「そうか、しかたないね。また今度」

2人はポイポイの星の女の子にバイバイしました。

メグルを乗せたミュウちゃんはぎゅんぎゅん進んで  
次の星のところまでできました。

「あ、あそこに紫色のツルツルした星があるよ」

メグルが一番近い星を指差していました。

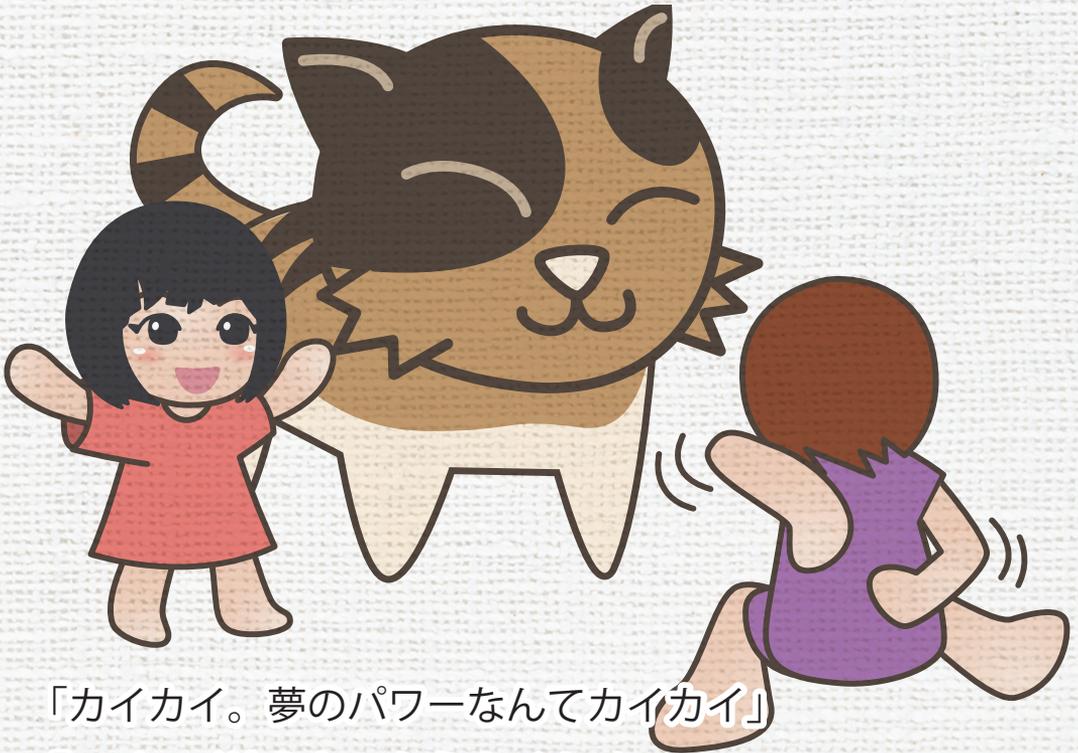
「あそこはカイカイの星だにゃ。よしおりて見るにゃ」



二人が降りた星はカラカラに乾いてて、  
女の子がひとり背中をぼりぼりかいていました。



「夢豆乳はどこですか？メグたち、  
夢のパワーを探してるんです」



「カイカイ。夢のパワーなんてカイカイ」

「つべつべ塗らないからカイカイ。

ぼりぼりかくからカイカイ。

お風呂大嫌いカイカイカイ」

「悪いけど夢豆乳はここにはないよ」

「そうか、しかたないね。また今度」

2人はカイカイの星の女の子にバイバイしました。

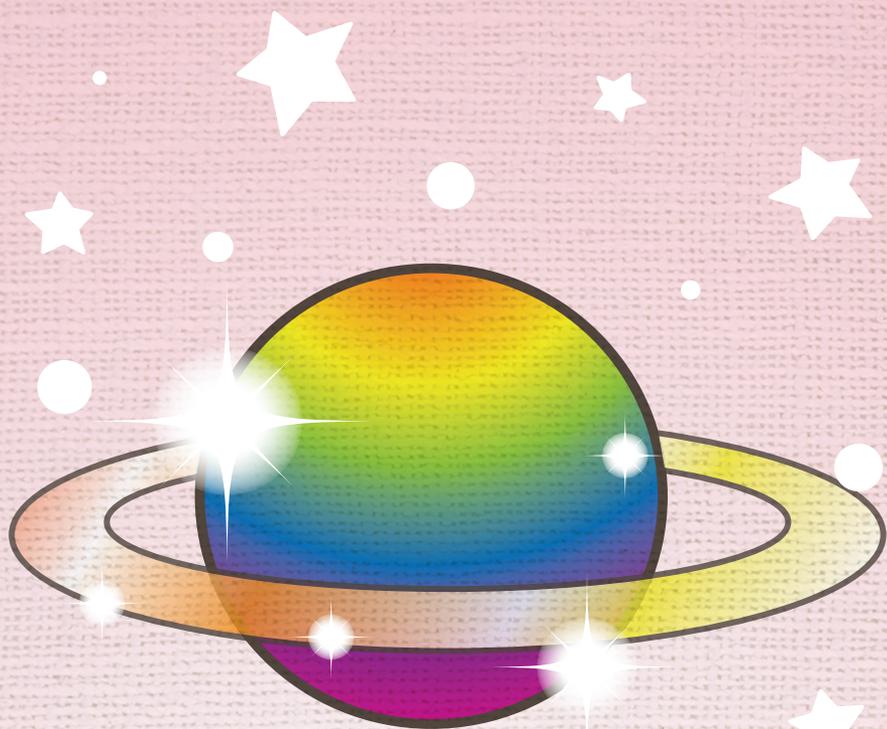


メグルを乗せたミュウちゃんは、  
ずぎゅうんと進んで次の星のところにまできました。

「あ、あそこに虹色のピカピカした星があるよ」

メグルが一番近い星を指差していいました。

「あそこはニコニコの星だにゃ。よしおりて見るにゃ」



二人が降りた星に虹色に光っていて、  
女の子がひとりニコニコしてお座りしていました。

「夢豆乳はどこですか？メグたち、  
夢のパワーを探してるんです」



「ニコニコ。夢のパワーでニコニコ」  
「ごはんを食べてニコニコ。お片づけしてニコニコ。  
お風呂に入ってニコニコニコ」



「夢豆乳はいっぱいあるよ。好きなだけ持って行って」

「わあ、ありがとう！」

女の子はメグルに大きな夢豆乳の入った  
水筒をくれました。

メグルはついに夢のパワーを手に入れたのです！



帰り道、メグルは途中で会った女の子達を  
思い出しました。

「ねえミュウちゃん、

あの子達にも夢豆乳を飲ましてあげようよ」

「それはいい考えだにゃ」



カイカイの星の女の子に「夢豆乳」をあげました。

「お風呂気持ちい！ニコニコありがとう！」

女の子はにっこり笑ってお礼をいいました。

「どういたしまして！」



ポイポイの星の女の子に「夢豆乳」をあげました。

「お片づけ楽しい！ニコニコありがとう！」

女の子はにっこり笑ってお礼をいいました。

「どういたしまして！」



ヤダヤダの星の女の子に「夢豆乳」をあげました。

「ごはんおいしい！ニコニコありがとう！」

女の子はにっこり笑ってお礼をいいました。

「どういたしまして！」



メグルはみんなにお礼を言われていい気分になりました。  
そしてなんだかとっても眠くなってきました。

「寝ててもいいにゃ。ついたらおこすにゃ」

ミュウちゃんがそういつてくれたので、メグルは  
ミュウちゃんのふかふかした背中でねんねしました。



「おはよう、メグル！」

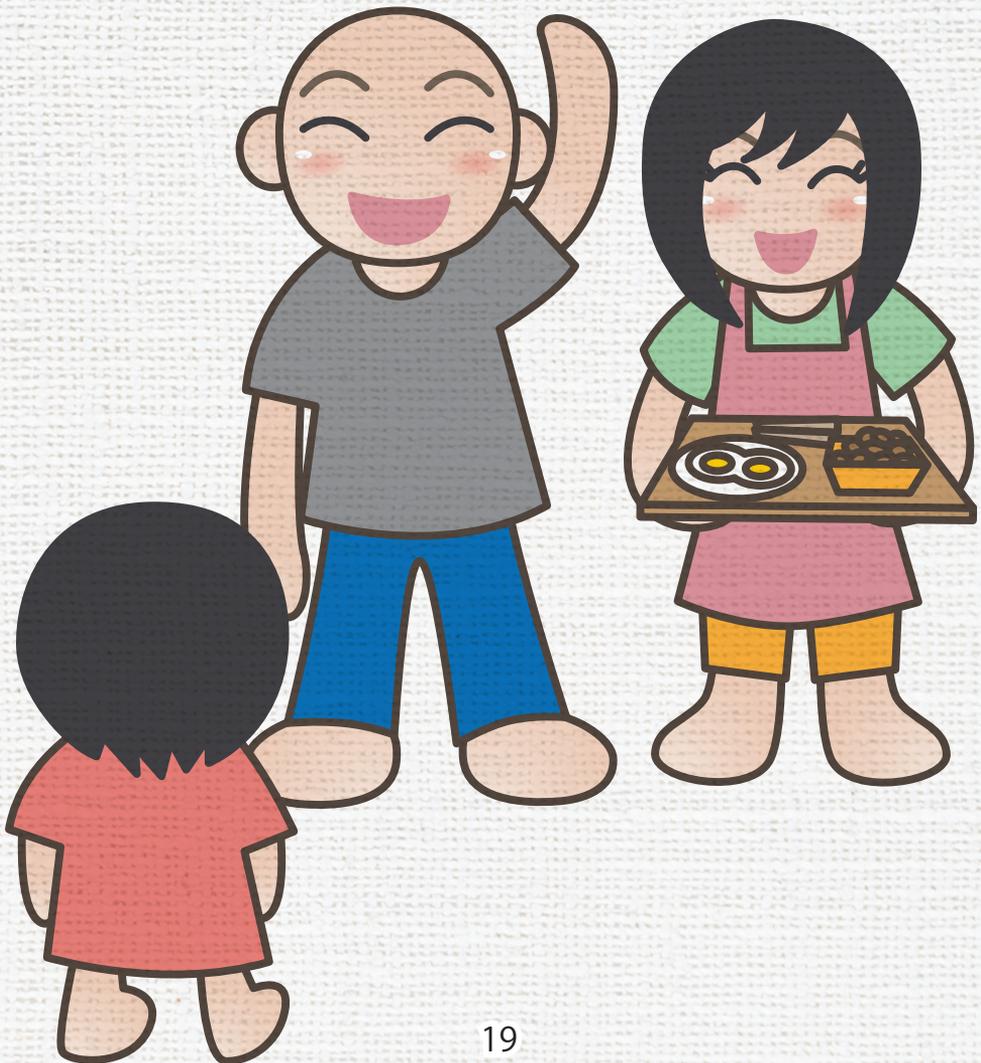
メグルはとうちゃんの声で目が覚めました。

「今日はみんなでバアバの家に遊びに行くよ」

とうちゃんが元気にそういました。

「今日の朝ごはんは納豆と目玉焼きよ」

台所ではかあちゃんがごはんを作っています。



「夢のパワーは？ ミュウちゃんは？」

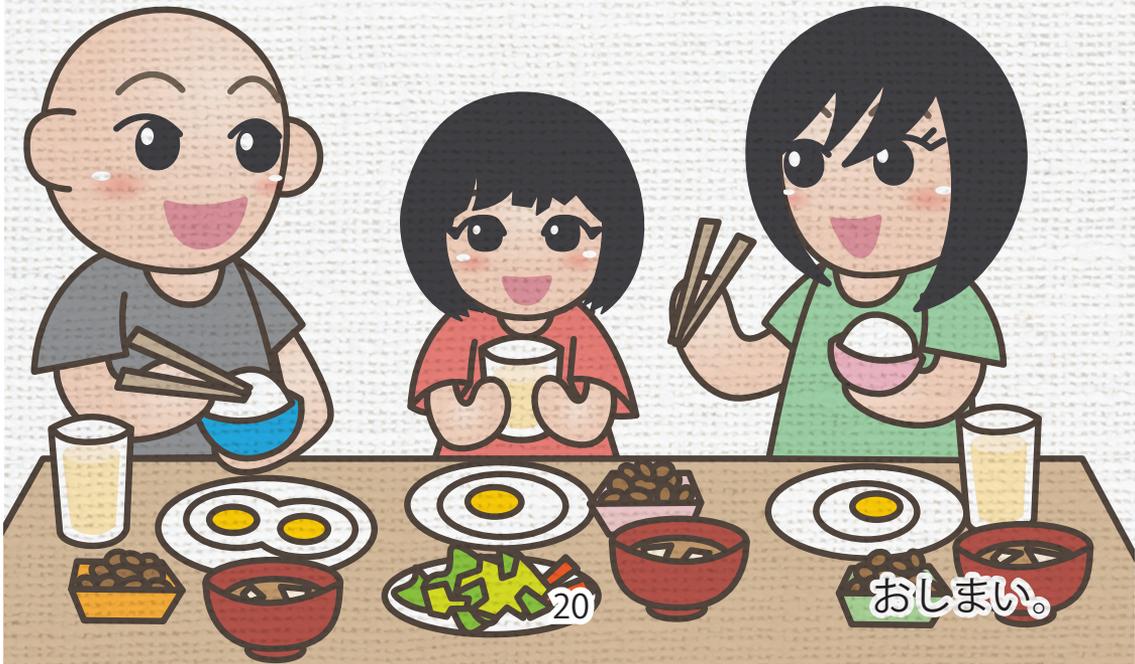
メグルはなにが起きたのかよくわからなくなってしまいました。



でもテーブルの上に新しい豆乳があったのをみつけたのです。

「メグも豆乳飲むー！」

かあちゃんもとうちゃんもメグルもニコニコでした。



出 演

メ グ ル

とうちゃん

かあちゃん

ミュウちゃん

ヤダヤダの星の女の子

ポイポイの星の女の子

カイカイの星の女の子



